

アートプロジェクト  
〈コモンズ農園〉  
Art Project for Kinan  
Commons Farm

廣瀬 智央

Satoshi Hirose

アートプロジェクト〈コモンズ農園〉ハンドアウト

発行：Tartaruga Books、紀南アートワーク実行委員会

協力：長野県立美術館、和歌山県みかん農園の方々

編集：プロダクション・ゾミア、廣瀬智央

デザイン：ColoGraphical

発行日：2023年10月15日

<https://kinan-art.jp/>

コモンズ農園 プロジェクト 問い合わせ先：info@kinan-art.jp

## アートプロジェクト〈commons農園〉

### プロローグ

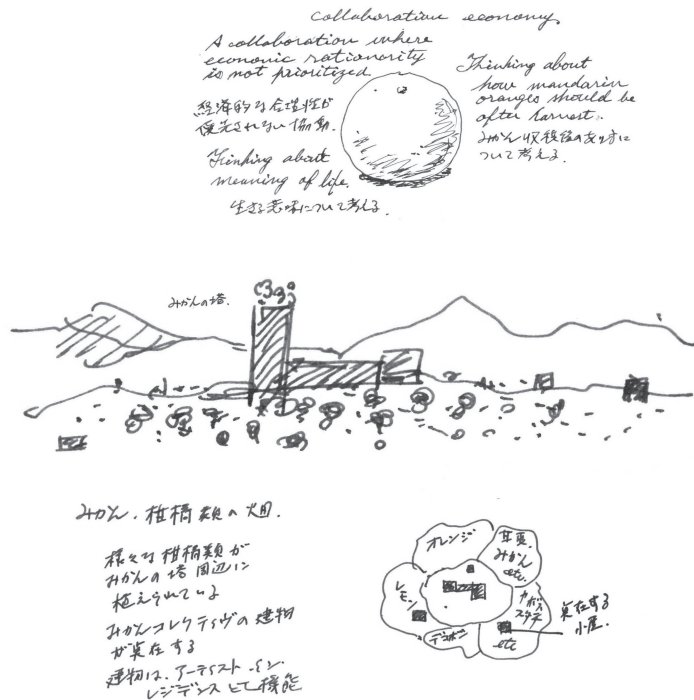
2022年の秋、「紀南アートウィーク2022 みかんマンダラ」展が開催されました。テーマは「みかん」。みかんと他分野との接点を探り、和歌山を代表する博物学者、南方熊楠がこの熊野の地で見出したような宇宙的な広がりを持つ、新たな集合知=マンダラを、アート作品やワークショップ等で構成し表現する試みでした。この「みかんマンダラ」展でアートプロジェクト〈commons農園〉は始動し、和歌山県田辺市上秋津の秋津野ゆい倉庫で、未来の「農園」を予感させるインスタレーションを発表しました。

「みかんマンダラ」展開催に向けて、キュレーターのプロダクション・ゾミアや事務局との間で議論を交わしながら、お互いの考え方を共有し、みかん農家さんや地域文化のリサーチを重ねてきました。そうしたなかで浮かんできた案が、アートプロジェクト〈commons農園〉です。

〈commons農園〉では、収穫されたみかんとアート作品の素材として使うだけでなく、作品素材そのものを育て生産するところからスタートします。みかんと育て収穫をめざしながら、農園での様々なプログ

ラムや参加者との交流をおこないます。プログラムを通して、生きる意味を問い、これからの新しい価値観を見つけだしていきます。

農園が開園し、みかんが収穫できるようになる頃、私たちの問いかけやプロセスにも実がなり、多種多様なみかんの作品も生まれることになるでしょう。



## コモンズ(Commons) とは何か？

広辞苑によると、「入会地(いりあいち)などのように共同で利用・管理される土地」。また、コモンズの内容については論者によりさまざまですが、一般的なものとして、共有資源を共同管理する仕組みがあげられます。ここでの重要なポイントは共有すること、人々のつながり方やつながるしくみを作ること、共有資源の保全、とっていいかもしれません。それこそがコモンズ的な考え方といえそうです。

### なぜコモンズなのか？

そもそも、個人や家族、あるいは気の合う友人だけで楽しく過ごしたり、個人所有の土地を確保して収入を得るために使うだけでなく、わざわざ異なる職業の人や見ず知らずの人とつながるのは面倒に思え、そんなことに意味があるのだろうか、と疑問をお持ちの方もいると思います。しかし、その疑問こそが「なぜコモンズなのか？」を考えるステップになるのではないかと考えています。ある意味でコモンズ的な考え方は、現在の生業としての農業や仕事、人とのつながりとは全く正反対の位置にあり、息詰まったシステムや限界を乗り越

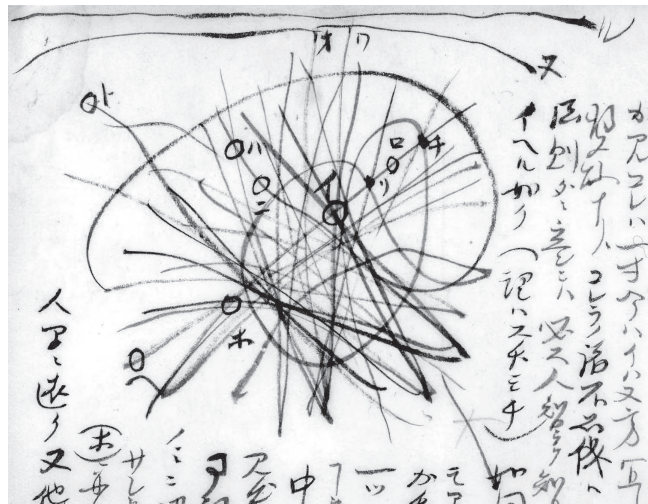
えていくための新しい在り方や、精神的な豊かさを得るためのライフラインをより良くしていく可能性を示唆していると考えています。生きづらさや社会的な不安、個人単位だけの幸せの限界を感じるようになってきている現代社会では、このコモンズ的な考え方を思考しながら実践していくことは、私たちを取り巻く諸問題に複数の価値観によって対応していく手段とも考えられるのではないのでしょうか。つまり個人だけではなく、異なる立場の地域住民が意見を交わすことは、資源保全の有効な手法として、コミュニティ(地域共同体)を捉えるための大きな意味を持ちます。こうしたコモンズ的な考え方を我々の目指す〈コモンズ農園〉や地域に当てはめてみるならば、紀南地域における共有資源の保全とは、人、自然、みかん、梅、景観(地域の歴史や文化も含む)の保全と考えることができます。

### なぜ紀南で〈コモンズ農園〉を始めるのか？

アートプロジェクト〈コモンズ農園〉は、収穫された農産物などをただ単に作品素材として使うのみならず、みかんを通して普遍的な人間存在のあり方や、みかんの歴史からこの地に深く息づく神話、熊野の森、食文化を掴み取ろうとするプロセスを大切な要素として捉

えました。私たちが考える紀南でのコモンズ的な考え方の導入は、ワークショップによって人々の交流を促す、イベントによって人のつながりを促進するなど、人々が共同で活動する場を形成することやそのためのしくみを整備することです。紀南の共有資源として重要な「みかん」に注目することで、みかんを通じて歴史や食文化を識り、人々とのコミュニケーションをつくりだしていきます。

森羅万象の生命が宿る黒潮文化の地で生きた知の巨人、南方熊楠の先駆的な生き方と研究にある南方マンダラ\*1は、人間中心の世界観を脱し、多種多様な生物との共生のビジョンを私たちに語りかけてくれるはずです。そして、サステイナブルな環境と社会の実現を目標に、日常生活にある数々の不都合を是正していきます。ローカルな文脈をラジカルに変えていくことは、グローバルな世界にも影響を与えていきます。



書簡1771：土宜法龍宛封書(南方マンダラ)「南方熊楠顕彰館(田辺市)」所蔵

## 〈コモンズ農園〉のビジョン

この地球の生態系の危機やわたしたちの生きる根幹が危機にさらされている現代社会では、わたしたちはどのように世界と接続し、来るべき未来のリアリティをどう紡いでいくのかを、いま問われています。紀南のローカルな文脈を考えていくと、「既存のさまざまな異なる分野の間にある高い壁を越えて、人間中心の社会を見なお

\*1

さまざまな領域を横断し、異質な考えをつなげたりしながら、熊楠は世界のあり方を思索しました。わたしたちが生きているこの宇宙の本質について教えてくれるのが、この熊楠の思想が反映されたマンダラ図です。わたしたちの生きている現実の世界や、死後の世界までを含めた、不可視な世界の潜在的な在り様を理解することが出来ます。マンダラとは壮大な世界像を示したもので、人類すべての在りようを思考した熊楠の世界像を読み取ることで、わたしたちは自分の存在についての深い理解に達することが出来るといわれています。

していく」ということは、生態系を考える全てにおいて手掛かりになり、南方熊楠に学びながら現代のアニミズム的世界観の意味を考えることにもつながります。アニミズムの世界とは、大きな宇宙の存在の中で、必ずしも人間が中心の存在ではないという考え方で、人間のみならず、動物、植物、物にいたるまで、人間以外の生きものや無機物にも魂が宿るとする思想です。境界や垣根をこえて、わたしたちをとりまく様々な存在との関係が問われる時代において、現代のアニミズム的世界としての新しい思考や生き方も探究していきます。そのための実践が〈コモンズ農園〉です。

## 〈コモンズ農園〉はなぜアートなのか？

アートという領域からのアプローチは、固定された世界の固有性をゆるがし、そこに自由を導き入れる力があります。既存の固定化された考えを解放し、ものごととものごとをつなぎ、従来の課題解決としての手法を超えていく創造的な可能性を秘めています。私たちが考えるアートとは、異なる者の間に置かれるものです。お互いに似た考えを持つ者が集まって眺めて美しいとか、いいねと感じるものではありません。そうすることで、誰かが作り出したものを見ながら、共感できる場所や違和感を感じる場所を、お互いに意見を交

換し合うような場が生まれます。アートが未来の世の中においても必要だと思われるとしたら、結論を急がず、お互いを理解するための役割を持つからではないかと考えています。

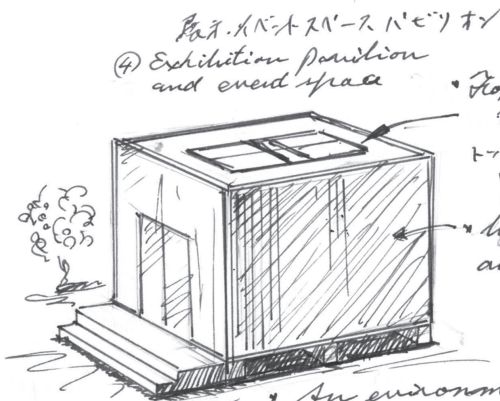
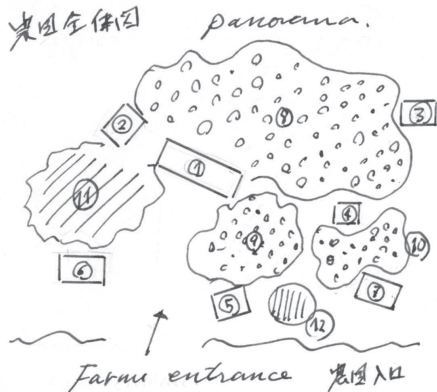
このアートプロジェクトは持続的な活動を目指しますが、経済的な成功や地域振興を目指すわけではありません。発信力や人のつながりだけでなく、この活動に参加する人たちが自分や他者の感性を通して解放されていくような経験を重視します。そのため、製品の生産や広報活動を効率的に実施することよりも、少しずつ長い時間をかけて取り組むことを優先しています。従来の農業実践から多くのことを得ながら、自然や地域との関わりをアートプロジェクトとして実施していくつもりです。



銀河一画 ながる コモンズ農園の農園

# Commones farm exhibition and library space images

現代農業、図書館 展示スペース  
イベントスペース イキジ



- Top light system  
View with natural light only!
- トワイライトシステム  
自然光のみでの照明
- Utilization of waste wood and local wood  
廃材や地元木材の活用

An environment integrated with nature  
自然と一体化した環境。

- ① Main facilities (accommodation/reception/meeting room/rab)  
メイン施設 (宿泊 受付、ミーティングルーム、ラビ)
- ② library 図書館
- ③ ~ ⑥ Exhibition pavilion and event space 展示スペース イベントスペース
- ⑦ Warehouse 倉庫他
- ⑪ ⑫ vegetables 野菜

Each facility will be scattered throughout the farm.

各施設は農園内に点在するよう設置される。

- ⑧ ⑨ mikan mandarin orange ⑩ lemon ⑪ ⑫ library 図書館内部のイキジ

The front entrance is made of glass, creating a larrooped scenery.

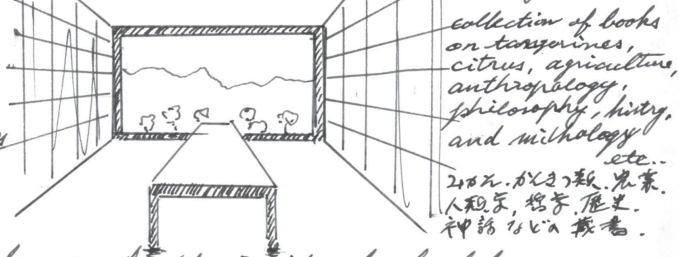


Image of the inside of the library.

## 〈コモンズ農園〉のロードマップ

### 2021年

秋 ● 和歌山県紀南地域にて柑橘をテーマとしたプロジェクトを開始することを計画

11月 ● 第1回調査 和歌山県田辺市、白浜町を中心にリサーチを行う  
● 紀原農園を訪問し、紀南というローカルの景観の保全やライフスタイルのあり方など話し合う

### 2022年

04月 ● 第2回調査 農園候補地を検討するための調査を行う

● 松下農園、尖農園、山本みかん農園、秋津野ガルテンなどを訪問

08月 ● アートプロジェクト名を〈コモンズ農園〉に決定

10月 ● 「紀南アートウィーク2022 みかんマンダラ」展のため、田辺市にて作品制作を行う

● 摘果みかんを使用した紙を使用した作品や柑橘の枯れ木などを使用して作品など、地域の素材を使用

10月04日 ● みかんマンダラ」展の展示場所となる秋津野ゆい倉庫にて、地域の協力者との意見交換会を行う

10月6日 ● 「紀南アートウィーク2022 みかんマンダラ」展にて《みかんコレクティブ》を出品  
～16日

10月08日 ● 「みかんの苗木の旅」苗贈与式&トークセッション  
ゲスト:原拓生氏(紀原農園 園主)  
14組が里親として参加。各参加者に2種類の苗を贈呈  
小冊子『みかんの苗木の旅』、『みかんの苗木の旅ノート』を制作、里親に配布

12月28日 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.1」発行

### 2023年

02月01日 ● 里親の方とのコミュニケーションツールとして、LINEグループ「みかんの苗木の旅 オープンチャット」を開設

02月24日 ● 紀南アートウィークHP内に「コモンズ農園 廣瀬智央:みかんの苗木の旅」プロジェクトページを開設  
<https://kinan-art.jp/info/11229/>

06月07日 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.2」発行

09月15日 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.3」発行

10月01日 ● 「コモンズ農園ハンドアウト」発行

10月13日 ● 「第1回 みかんソムリエ講座」ワークショップを開催(和歌山県田辺市秋津野ガルテン)  
～15日

10月17日 ● 第3回調査 農園候補地を検討するための調査を行う

10月19日 ● 「手で触れてみる世界」ドキュメント映画上映会 + トーク開催

10月22日 ● 「紀南アートウィーク2023 みかんかく」のため、「未来の給食」、「いちどためしてごらん」、「歩きながら識る、交流する」、「スパイス&ハーブ・チャイ」を開催(和歌山県田辺市秋津野ガルテン、農園)

11月03日 ● 長野県立美術館のアートラボ企画展「みかんの旅」で〈コモンズ農園〉を紹介する展覧会を開催

## 2024年

※以下のスケジュールは全て予定

01月 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.4」発行

～02月12日 ● 長野県立美術館のアートラボ企画展「みかんの旅」で〈コモンズ農園〉を紹介する展覧会が終了

03月 ● 第2回「みかんの苗木の旅」苗贈与式を開催

08月 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.5」発行

10月 ● 紀南アートウィーク 2024」のための展示やワークショップを開催

12月 ● 農園候補地を決定

● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.6」発行

## 2025年

01月 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.7」発行

03月 ● コモンズ農園開園

● 農園名決定

● 農園の開墾をスタート

● 第3回「みかんの苗木の旅」苗贈与式を開催

● 「コモンズ農園」ワークショップ開催

08月 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.8」発行

10月 ● 「紀南アートウィーク 2025」のための展示やワークショップを開催

● 「コモンズ農園」のため、宿泊・作業施設建設開始（アーティストに限らず、幅広い表現者や研究者、環境や農業に関わる人たちが思考を深めるための滞在施設「思索するレジデンス」）

● 「コモンズ農園」ワークショップ開催

12月 ● 「みかんの苗木の旅 通信 vol.9」発行

## 2026年

03月 ● 領域を超えた分野の方々との交流やシンポジウムを行う（みかん会議を開催）

● 農家の方が普段できないような実験の場を、農×〇〇のような実験が可能な場（＝ラボ）を作る

08月 ● 子どもたちや親子が参加する「サマーキャンプ」を開催（農とアートを中心としたキャンプ／学習の場／交流を通じて生きる楽しさや未来への希望を紡いでいく）

10月 ● 「紀南アートウィーク 2026」のための展示やワークショップを開催

● 農園内にみかんや柑橘類、農業、人類学、哲学、歴史、神話に関わる本を集めた図書館を設立スタート

● 「コモンズ農園」ワークショップ開催



## 2027年

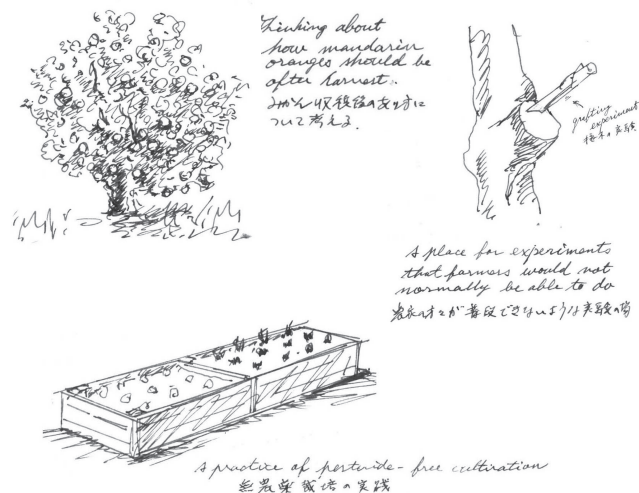
- 01月 ● 気候変動について農家から社会に提言を行うプログラムをスタート(勉強会を1-2年実施し、その後「シンクタンク」のようにアニュアルレポートを作成)
- 08月 ● 農家の学校プログラム(通常の科目ではなく、農業において重要な知識を元に授業を体系化し、場所を確保してからその維持費用を確保する目的も兼ねて夏の間だけ実施)
- 10月 ● 「紀南アートウィーク 2027」のための展示やワークショップを開催

## 2028年以降

- 農園で初めてのみかん収穫を行う
- アート作品を展示するための空間が農園内に作られる(自然と一体化したパビリオンが農園に点在し、自由を感じられる展示方法)
- みかんを使ったアート作品の展開も行う
- 農園で収穫された柑橘類を実際に味わえる施設の建設スタート
- トークシリーズ、ワークショップ、コンフェレンス、シンポジウム等を随時継続させていく

このロードマップはアートプロジェクト(コモンズ農園)のビジョンを示しています。これからどのように展開されていくのか? 農園に参加者いただくみなさんのコラボレーションによって流動的に変化しながら農園を作り上げていきます。

〈コモンズ農園〉はアートプロジェクトの名前です。このロードマップに沿って実際に場所が見つかり農園がオープンするときには、参加者の皆さんと名前をつけられたらいいなと考えています。そのときには「農園」ではなく「公園」とか「ガーデン」とかそういう呼び方に変わっているかもしれません。いずれにしても、みんなでいろいろアイデアを出し合いながらオープンできるのを楽しみにしています!





みかんマンダラ、2022

インク、和紙

廃棄された早生みかんを使い循環再生させたくみかんの和紙>に描かれた  
commons農園をテーマにした集合知としてのドローイング